

# 生徒の目が輝くディベートの授業

湯沢市立山田中学校 教諭 大野 理智子

## 1 はじめに

3年生でディベートの授業を行うようになってから7年になる。生徒たちはことばでのバトルや反論ができるこの授業が大好きで、いつも大いに盛り上がる。ディベートというと難しく感じるかもしれないが、今回紹介するのは全員が発言できて、しかも活発に意見が飛び交う授業である。正式な形のディベートではないが、中学校で「ディベートは楽しい」という体験をすることが、いずれ本格的なディベートをする時の大きな力になっていくと考えている。

## 2 取組の実際

(1) 学 年：3年生

(2) 単元名：Living with Robots – For or Against –（東京書籍 New Horizon English Course 3）

(3) 単元ゴール：根拠を明確にして、分かりやすく賛成・反対の意見を表現することができる。

(4) 単元指導計画：全14時間

※本文の内容理解とアウトプットを通してディベートで発言する内容や表現方法を身に付けていく。

第1～3時：新出文法（分詞の後置修飾・間接疑問文）

第4時：本文①太鼓をたたくロボット「やすかわ君」を、本文の英文を用いてペアで紹介し合う。

第5時：本文②2足歩行ロボット「アシモ」について登場人物になって会話する。

第6～7時：本文③ロボットとの共存についての議論をスキットにしてグループで発表する。

第8～9時：本文④第6～7時と同じ活動を次のページを使って行う。

第10～11時：Living with Robots について賛成・反対意見の根拠をグループで話し合う。

第12時：ディベート1回目（賛成・反対はチーム代表のジャンケンで決める）

第13時：ディベート2回目（賛成・反対を逆にして行う）

第14時：単元の振り返りと文法のまとめ

(5) ディベートの手順

授業はALTとのTTで行う。ALTは黒板の真ん中に線を引き、賛成と反対に分けて生徒の意見を板書する。学級を2グループに分け、両チームが向かい合うように座る。ただしペアが隣同士になるようにする。ディベートのトピック"Living with Robots – For or Against –"を板書しておく。

①学習課題「説得力のある意見を述べるには？」を提示する。

②ディベートの準備

(ア) ディベートの流れとルールを確認する。

<ルール> 1回の発言につき1ポイント、同じ意見でも紹介する具体例が違っていればポイントが加算される。反駁意見は2ポイントとする。チーム全員発言でボーナス3点が加算される。

- (イ) 「ディベートで付けたい力」が書かれてあるチェックリストにチェックマーク（今日の個人目標）を入れペアで自己申告し合う。
- (ウ) 各チームの代表者が賛成・反対を決めるジャンケンをする。
- (エ) 賛成・反対の根拠を各自ワークシートに記入する。
- (オ) ペアでワークシートの内容を確認し、意見発表の準備をする。

③ディベート

- (ア) 前半（賛成チーム3分・反対チーム3分）

生徒は挙手をして意見を述べる。最初のセリフを I (don't) think that living with robots is good. に決めておくことで発言しやすくなる。

- (イ) 作戦タイム（3分） ペアまたはグループで意見を考える。

- (ウ) 後半（反対チーム3分・賛成チーム3分）

生徒は挙手をして意見を述べる。ただし、前半の意見に対して反駁意見を述べるができる。言い方の例は「○○ said," ~ ", but I don't think so.+根拠」の形。

- (エ) 作戦タイム（3分）

- (オ) フリーバトル

どちらのチームも挙手で意見を言うことができる。

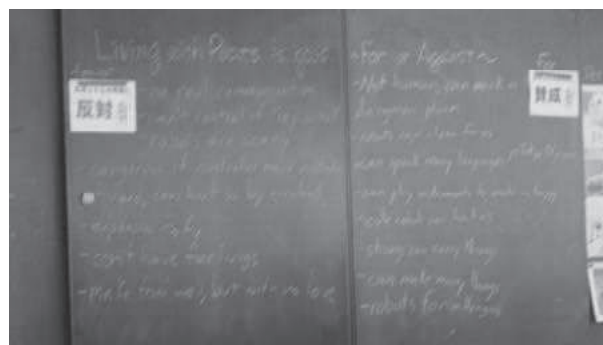
④まとめ・振り返り

- (ア) 授業の始めに自己申告したチェックリストを使ってペアで振り返りをする。

- (イ) 勝敗を ALT が発表し、授業についてのコメントを言う。



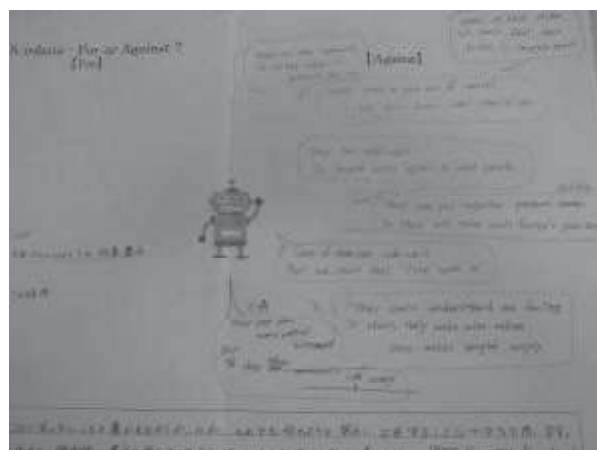
<2つのチームが向かい合う>



<ALTが生徒の意見を板書>



<授業で使った画像が発言の手助けに>



<賛成・反対の根拠を記入したワークシート>

### 3 指導のポイント

- ・単元の導入時に教科書に出てくるロボットの是非を ALT と話し合い、単元末にディベートを行うことや、単元のねらい（どんな力を付けるのか）を伝えておくことで、各時間がゴールを意識した必然性のあるものとなる。また、顔を上げて話す、全員に聞こえるように話す、静かに聞くなどのコミュニケーションスキルも意識できるようになる。
- ・チームを決めるときには両チームのバランスが悪くならないように配慮する。
- ・全員発言をボーナスポイントにすることで、作戦タイムが、なかなか発言できない生徒へのアドバイスタイムにもなる。

### 4 生徒の振り返りから

#### ○この単元でできるようになったこと

この単元を通して相手に自分の話したい内容が伝わるようにアイコンタクトや話す内容、声の大きさに気を付けて話すことができるようになった。説得力のある意見を言うために、私は自分の意見の中に具体例を入れて発表した。例えば「やすかわくん」などのロボットの名前を入れたり、「東京オリンピック」などのロボットが活躍しそうな行事の名前を入れる工夫ができた。前よりも自分の伝えたいことを英語で書くことができるようになったと思う。また、ただ書くだけでなく、相手に分かるように簡単な単語を使うなどの工夫も入れて英文を書けるようになったので嬉しかった。

#### ○感想

今回やったディベートは賛成か反対かが対戦をする直前に決まるので、その時間に自分の意見をまとめなくてはいけなくて大変だった。でもそんなときに協力してくれたのはチームのみんなやペアの人で、みんなが話し合いに参加してどうしたら相手チームに勝てるか一生懸命頑張って意見を考えた。このディベートを通して仲間で協力する大切さを改めて学ぶことができた。

### 5 おわりに

ディベートの授業を行うと学級の仲がよくなっていく。それにはいくつかの理由がある。1つ目は、反論できる雰囲気ができるということである。いつもはおとなしい女子が、やんちゃな男子に反論したりする。I don't think so. と言い合える関係がそこに生まれる。2つめは、制限時間があることや勝ち負けという負荷がチームの絆を深めていくことである。実際、3分という作戦会議では、チームの全員が頭を突き合わせて話し合いをしたり、思わず立ち上がってアイデアを提案する生徒の様子が見られた。

勝ち負けで終わるのではなく、何のための活動か、単元末にどんな力が付いたのかを言語化して達成感につなげることも大切にしている。「伝える力」や「聞く力」を伸ばし、学習集団を育てるディベートの授業をこれからも続けていきたい。